

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 全産業活動指数(2009年12月)

発表日2010年2月19日(金)

～単月では3ヶ月ぶりの悪化だが四半期ベースでは3四半期連続で改善～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 小杉 晃子  
TEL : 03-5221-4548

(単位:%)

		全産業活動指数												
		前期比		前年比		第3次産業活動指数		鉱工業生産指数		公務等活動指数		建設業活動指数		
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	
08	4-6月	▲0.8	▲0.9	▲0.4	▲0.5	▲1.3	0.8	▲0.8	▲1.4	▲2.3	▲11.8			
	7-9月	▲1.3	▲1.7	▲0.9	▲1.2	▲3.2	▲1.4	▲0.8	▲2.4	▲0.8	▲8.4			
	10-12月	▲2.7	▲5.0	▲1.7	▲3.0	▲11.3	▲14.5	0.6	▲1.1	2.7	▲0.9			
09	1-3月	▲6.2	▲11.1	▲3.1	▲6.5	▲22.1	▲34.6	0.0	▲0.4	▲0.6	▲1.1			
	4-6月	0.4	▲9.6	▲0.7	▲6.3	8.3	▲27.8	▲0.5	▲0.6	▲1.3	0.1			
	7-9月	1.1	▲7.4	0.5	▲5.0	7.4	▲20.1	0.4	0.5	▲6.9	▲6.4			
	10-12月	1.0	▲3.8	▲0.2	▲3.6	4.5	▲5.4	0.0	▲0.1	▲1.4	▲9.8			
08	4月	0.0	▲0.1	0.2	0.5	▲0.6	1.8	▲0.4	▲2.1	▲1.0	▲10.5			
	5月	0.0	▲0.9	▲0.2	▲0.7	1.2	0.9	▲0.2	▲0.8	▲1.4	▲12.1			
	6月	▲0.9	▲1.6	▲0.6	▲1.2	▲2.0	▲0.2	▲0.1	▲1.2	▲0.8	▲13.0			
	7月	0.1	▲0.3	0.3	0.2	▲0.3	2.3	▲0.6	▲2.6	▲1.2	▲13.0			
	8月	▲1.0	▲3.6	▲0.9	▲2.8	▲3.1	▲7.2	0.0	▲0.8	1.9	▲8.2			
	9月	▲0.5	▲1.2	▲0.3	▲1.0	0.1	0.4	▲0.2	▲3.9	0.6	▲4.0			
	10月	0.2	▲2.5	0.0	▲1.6	▲3.4	▲6.6	0.6	▲1.4	1.2	▲1.3			
	11月	▲2.1	▲6.1	▲0.9	▲4.2	▲7.0	▲16.5	0.1	▲0.1	0.3	▲1.5			
	12月	▲2.5	▲6.3	▲1.7	▲3.3	▲8.4	▲20.7	0.1	▲1.8	0.6	0.0			
	09	1月	▲1.2	▲8.9	0.5	▲4.3	▲10.1	▲30.9	▲0.9	▲1.1	▲1.3	▲1.5		
		2月	▲3.3	▲12.4	▲2.0	▲7.3	▲9.4	▲38.4	1.3	0.8	0.6	▲1.1		
		3月	▲1.6	▲11.8	▲2.7	▲7.7	1.6	▲34.2	▲0.1	▲1.0	▲0.5	▲0.9		
4月		2.2	▲10.1	2.0	▲6.3	5.9	▲30.7	▲1.4	▲1.4	0.8	1.0			
5月		0.5	▲10.3	▲0.4	▲7.3	5.7	▲29.5	1.1	0.8	▲1.5	1.0			
6月		0.1	▲8.3	0.2	▲5.3	2.3	▲23.5	▲0.7	▲1.3	▲2.8	▲1.3			
7月		0.5	▲8.3	0.5	▲5.5	2.1	▲22.7	0.5	0.3	▲3.2	▲3.5			
8月		0.9	▲6.7	0.3	▲4.4	1.6	▲19.0	0.0	0.4	▲1.2	▲6.4			
9月		▲0.7	▲7.2	▲0.5	▲5.0	2.1	▲18.4	0.0	0.8	▲2.1	▲8.8			
10月		1.2	▲6.4	0.4	▲4.7	0.5	▲15.1	▲0.3	0.4	▲0.6	▲10.5			
11月		0.2	▲3.3	▲0.1	▲3.1	2.2	▲4.2	0.6	▲0.4	1.8	▲9.2			
12月		▲0.3	▲1.6	▲0.9	▲2.8	1.9	5.1	▲0.4	▲0.3	▲0.1	▲9.8			

(出所) 経済産業省「全産業活動指数」

## ○ 全産業活動指数：前月比▲0.3%

12月の全産業活動指数は前月比▲0.3%とコンセンサス(同: +0.1%、レンジ: 同▲0.1%~+0.8%)を下回る結果となった。鉱工業生産指数の改善は続いているものの、第3次産業活動指数の改善が足踏み状態にあることで、全産業活動指数は3ヶ月ぶりにマイナスとなった。もっとも、単月ではマイナスとなったが10-12月期は前期比+1.0%と、7-9月期の前期比1.1%に続いて大きくプラスとなっており、基調としてみれば全産業活動指数の改善傾向は継続している。

内訳をみると、プラスに寄与した指数は鉱工業生産指数(前月比寄与度: +0.33%ポイント)のみであり、それ以外の第3次産業活動指数(同: ▲0.61%ポイント)、建設業活動指数(同: ▲0.01%ポイント)、公務等活動指数(同: ▲0.05%ポイント)は、すべてマイナスに寄与した。

## ○ 鉱工業生産指数は改善傾向が続く

個別にみると、鉱工業生産指数は前月比+1.9%と10ヶ月連続でプラスとなった。国内外での経済対策の効果や在庫調整の進展、輸出の回復、などを背景に生産は増産傾向が継続している。

一方、第3次産業活動指数は前月比▲0.9%と、前月(同▲0.1%)に引き続きマイナスとなった。セール前

倒しの効果などから小売業が前月比プラスとなったほか、クリスマス・年末などといった季節的な要因もあり娯楽業や宿泊業、飲食サービス業などの家計部門の活動は改善した。一方、商品販売の不振や設備投資の低迷などを背景に企業部門の活動は悪化したため、全体では2ヶ月連続のマイナスとなった。

また、建設業活動指数は、補正予算執行停止の影響などにより公共・建設・土木活動指数が前月比▲0.9%と、前月(同▲0.2%)からマイナス幅が拡大したことに加え、民間・建設・土木活動指数も前月比▲0.3%と、前月(同+2.1%)から一転してマイナスとなった。そのため、全体でも前月比▲0.1%と、2ヶ月ぶりに小幅マイナスとなった。

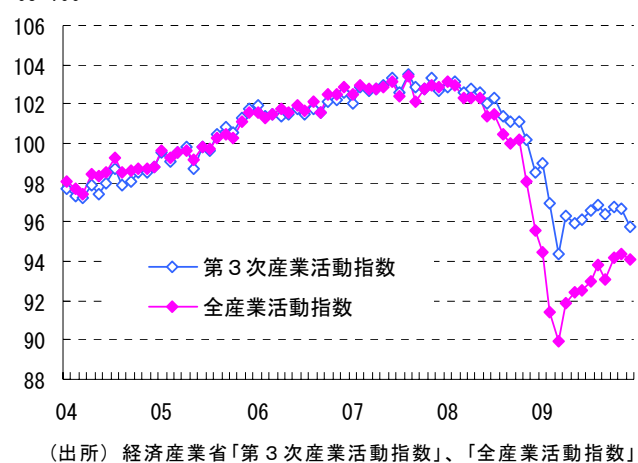
### ○ 先行き輸出や生産の回復を主因として緩やかな改善が続く見通し

全産業活動指数の先行きを展望すると、第3次産業活動指数は、①海外経済の順調な回復により輸出は堅調な推移が続くとみられること、②設備投資の緩やかな持ち直しが見込まれること、などから、企業部門の緩やかな改善が見込まれるものの、厳しい雇用、所得環境の継続や政策効果の一巡などを背景に、家計部門は弱めの動きが続くと思われるため、持ち直しペースは緩慢なものとなる。

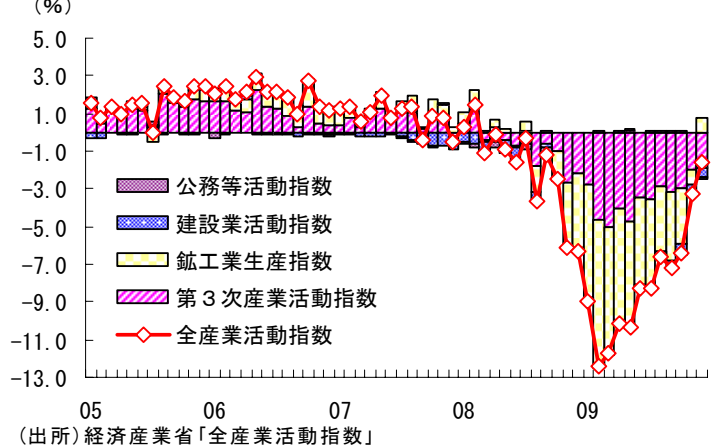
鉱工業生産指数は、在庫調整の進展によるリバウンド効果が弱まっていくにつれ増産ペースの鈍化が予想されるが、輸出の堅調な回復が続くことで今後も増産傾向が継続しよう。

以上を踏まえると、輸出や生産の回復を主因として、先行き全産業活動指数は緩やかな改善が続くだろう。

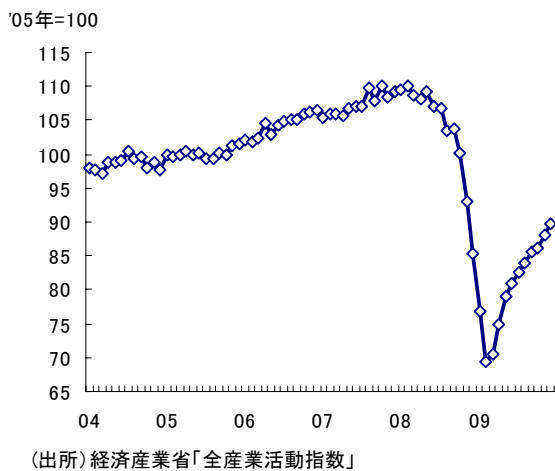
第3次産業活動指数と全産業活動指数(季調値)



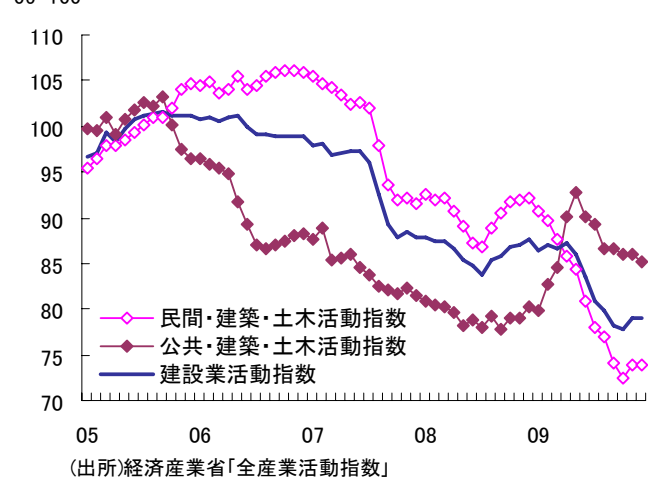
全産業活動指数前年比寄与度分解



鉱工業生産指数(季調値)



建設業活動指数(季調値)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。